

平成28年度「生徒及び保護者等を対象とするアンケート」結果から見た本校の課題等

<p>教育方針 学校経営</p>	<p>本校の掲げる教育目標については、生徒保護者とも昨年より評価が高くなっている。特に保護者からは+評価が81%となり、本校の教育目標についてご理解を得ていると考えられる。通学の様子については、若干評価は昨年度と比べて下がったが、ほぼ80%の生徒が学校生活を前向きに過ごしている様子が分かる。</p> <p>一方、「一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている」の項目では、昨年と同様に肯定的な評価が57%と、6割に満たない結果であった。A評価も多少増加したが、それでもまだ15%と低迷している。学習活動、部活動、生徒会等、学校生活のあらゆる場面で生徒一人一人が活躍し、自己肯定感を高めることができる教育活動を推進していく必要がある。</p>
<p>家庭との 連携</p>	<p>本年度は「すぐメール」100%登録を目標に務めてきた。その効果もあってか一斉配信メールについては、昨年同様に保護者のAB評価が91%(A評価は63%)と高く、台風等の緊急時だけでなく、毎月の行事予定や配付物の確認等に効果的であったと思われる。「学校からの連絡文書等は保護者に確実に届けられている」の項目もAB評価が昨年度の61%から69%に大幅に増加した。</p> <p>一方で、ホームページによる速やかな情報伝達については、保護者のAB評価が昨年度の67%から変化していない。本年度はホームページに「多治見高生の活躍」の項目も作成し、アクティブラーニングの項目も設けた。学校の取組を広く知ってもらうためにも、保護者にも一層の関心をもっていただくように働きかけていきたい。</p>
<p>教職員</p>	<p>「学校を訪問したり、電話したりした時の学校職員の対応」についてはAB評価が82%と高い評価をいただいた。地域に開かれた学校創りを一層推進していきたい。「教育活動に熱心に取り組む、魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる」については、AB評価が69%(昨年度71%)とさほど高くない。A評価も18%にとどまっている。本年度はアクティブラーニングの取組も始めた。それによる授業改善も含めて積極的に保護者に知ってもらうよう努力していきたい。「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」は、生徒のAB評価が59%と6割にも満たない。A評価も18%である。この現実をしっかりと受け止め、生徒にとって身近な存在であるよう研鑽を積んでいきたい。</p>
<p>学習指導</p>	<p>生徒用NO11「本校では、教科により習熟度授業や少人数授業があり、それが学習の理解に役立っている」という項目では、AB評価合計で昨年度より8%増加している。一方同様の質問で保護者は2%減少している。生徒の学力向上に役立っているという点では大きく評価して良い。さらに適切な授業形態を模索し、効果を出したい。ただ保護者への説明については十分に配慮したい。保護者・学校評議員用NO17「授業を通して、一人一人の能力に応じた指導を行っている」という質問に対して昨年度に比べ8%減少している。上述した生徒評価と矛盾する点もあるが、保護者の方からは授業形態のこと以上に“教員の力量、授業の質”について課題であると考えられているかもしれない。十分検証していきたい。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>モラル・マナー、身だしなみ、遅刻防止、情報モラル指導において肯定的評価が70%前後の値で推移している。身だしなみ指導を除き、数値が減少傾向であることに危機感を抱くが、保護者の評価は生徒以上に高く、指導が受け入れられている。生徒には機会あるごとに粘り強く、継続的に指導する。また、冬季防寒着が学校指定品ではないことから、必ずジャケット着用とする。</p> <p>いじめや体罰の問題、教育相談については、自身に関係のない問題には関心を示さない傾向から「わからない」の回答が増加している。また、プライバシーに配慮を必要とする面もあり、周知されにくい部分でもある。いじめ迷惑調査の実施からの対応、心の問題を抱えている生徒のスクールカウンセリングなど、教育相談体制は組織的かつ機能的に対応できており、これからも未然防止、早期発見、早期対応を基本にして推進していく。</p>

<p>進路指導</p>	<p>生徒アンケートはプラス評価減少という残念な結果となっている。学年ごとの集計ではないため判断は難しいが、最近の生徒の様子を見る限り、塾へ通う生徒が増えそれに伴い塾の指導に従う生徒が増加傾向にある。塾の指導が必ずしも正しいとは思えないが、「学校よりも塾」と考える生徒が増えてきている部分から目をそらすわけにはいかない。各教員が進路について親身になって生徒と向き合っているか、受験指導が十分できているかなどを振り返ってみる必要がある。進路指導部としては、推薦入試についての事前説明が不十分であったことが反省点である。また補習やサタスタは実態に応じて更なる見直し、改善を進める必要がある。進路情報の提供については、業者からの大量の資料をさらに整理し、各担任へ、さらに担任から生徒へ十分周知の上配付することが必要である。</p> <p>保護者評価は、進路説明会の内容を見直した点や行事のHP掲載などによって情報が行き届いたことでプラスの評価が増えたにとらえたい。今後さらにメール配信などをこまめに継続することの重要性を感じている。</p>
<p>健康管理 安全指導</p>	<p>地震や台風などの対策マニュアルの周知についての肯定的意見は、生徒75%、保護者85%であった。昨年との比較でも向上しているが、H25年度と比較すると、生徒26%、保護者21%の伸びが見られた。メール配信と印刷物の配布により大きく向上したと考えられる。</p> <p>校内美化についてのアンケートの肯定的意見では、生徒56%、保護者76%で、生徒の数値が保護者よりも低くなっている。H27年度との比較では、生徒3%、保護者7%の向上が見られた。さらに、1・3号館の改修前のH25年度と比較すると、生徒11%、保護者23%の大きな伸びが見られる。校舎改修と日頃の清掃活動の成果と考えられる。</p>
<p>学校行事等</p>	<p>部活動について</p> <p>「部活動が活発である」に関しては、例年満足度は高いが、昨年度に比べ5%増えている。これは、野球部の甲子園出場も含め、多くの部活が良い成績を収め活躍をしている現状があり、生徒の頑張りと教員の努力の結果であると考ええる。</p> <p>活躍の有無にかかわらず、今年度のような数字を出していくためには、部活動が“勝つこと”や“良い結果を残すこと”だけではなく、クラスや学年とは違う集団の中で生きていく力を身につけ、挫折しても立ち向かう取り組み方を学ばせる場であることが必要である。そして、クラスだけでなく、生徒の居場所が確保できる部活動が、活発な部活動であると捉えることができるのではないか。</p> <p>ボランティアについて</p> <p>「ボランティア活動の大切さや機会を提供している」では、生徒アンケートでは、学年が上がるにつれて低い評価となっている。現状は、1・2年生を中心に部活動単位での参加・活動となっており、3年生の生徒、保護者の評価が低くなっていると考えられる。今年度、「一部活ーボランティア」として、多くの部活動が活動に参加した。しかし、“やらされ感”が強いためか、ボランティアと受け止めていない生徒も多く、評価に繋がっていない。この“やらされ感”をなくすため、量ではなく質を高め、生徒がやりがいを感じられる活動を目指していなければならない。そのための生徒へのアプローチの方法が課題となってくる。</p> <p>また保護者アンケートでは、昨年度よりも5%減少し、AB評価は40%しかなく、生徒のAB評価が47%であることを考えると、その差は、活動が保護者まで伝わっていないことが考えられる。生徒へのアプローチ段階から保護者へ情報発信していくことが必要である。</p> <p>生徒会活動について</p> <p>学校行事への満足度は例年高いが、生徒会活動は活発かどうかといえば、57%にとどまっている。生徒会が主体で行っている行事も多いが、それが生徒に伝わっていないことが残念である。「生徒会が今、何をやっているのか」ということを、情報発信し、生徒会の動きを生徒に知ってもらうことも必要だと考える。</p> <p>また、基本的には裏方の仕事が多く、その頑張りが周りに伝わっていない。執行部が全体を運営し、教員がバックアップする体制づくりが必要である。</p>

学校独自 項目	<p>「サタスタや夏季補習を通して、きめ細かな学習指導がなされ、効果が上がっている」については、生徒のAB評価が50%と昨年度の55%を下回る結果となった。この結果を真摯に受け止めて生徒にとって模試対策や平素の授業の補充等、真に実りのある時間となるよう教員が改めて教える内容等を吟味する必要がある。朝の10分間の読書については生徒のAB評価が76%となっており(A評価は40%)、一定の評価ができる。</p> <p>本年度より指定を受けたアクティブラーニングの取組については、生徒のAB評価が70%(昨年度は59%)となったが、本来は90%を超える数字が出なくてはいけない。年度当初に生徒に十分な説明(目標や意義も含めて)がないまま進んだことが原因だろう。保護者の認識度もAB評価がわずか40%である。昨年度より8%ほど増加したが、学校の取組が伝わらなかったことは問題である。来年度は、改めて年度当初に生徒や保護者に対してアクティブラーニングの目的や意義を伝えるとともに、LHRや授業の中でも話題にし、生徒の意識の中にしっかり根付かせていきたい。</p>
------------	---